

行政視察報告

委員会名	文教委員会												
視察日	平成28年5月18日(水)												
視察先	北海道旭川市												
視察委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">上村 やす子 委員長</td> <td style="width: 33%;">峯岸 良至 副委員長</td> <td style="width: 33%;">秋本 とよえ 委員</td> </tr> <tr> <td>小用 進 委員</td> <td>荒井 彰一 委員</td> <td>向江 すみえ 委員</td> </tr> <tr> <td>中江 秀夫 委員</td> <td>中村 けいこ 委員</td> <td>大高 拓 委員</td> </tr> <tr> <td>小林 ひとし 委員</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	上村 やす子 委員長	峯岸 良至 副委員長	秋本 とよえ 委員	小用 進 委員	荒井 彰一 委員	向江 すみえ 委員	中江 秀夫 委員	中村 けいこ 委員	大高 拓 委員	小林 ひとし 委員		
上村 やす子 委員長	峯岸 良至 副委員長	秋本 とよえ 委員											
小用 進 委員	荒井 彰一 委員	向江 すみえ 委員											
中江 秀夫 委員	中村 けいこ 委員	大高 拓 委員											
小林 ひとし 委員													
調査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 旭川市子ども読書活動推進事業について 2 不登校・いじめ対策について 												
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 旭川市子ども読書活動推進事業について 平成27年3月に策定した「第3次旭川市子ども読書活動推進計画 ななかまど読書プラン」に基づき、図書館、家庭・地域、幼稚園・保育所等、学校が、互いに連携、協力しながら読書活動推進のための事業を展開している。 2 不登校・いじめ対策について 不登校及びその傾向にある児童生徒に対し、適応指導教室を開設し、学校生活への適応や学校復帰を支援している。いじめ対策については、校長のリーダーシップの下、各校で「学校いじめ防止基本方針」を策定し、組織的な対応によるいじめ問題への対応を行うほか、6月と10月を「いじめ・非行防止強化月間」として児童・生徒への指導及び相談体制の充実を図っている。 												
視察内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 旭川市子ども読書活動推進事業について (1) 各部門(図書館、家庭・地域、幼稚園・保育所等、学校)での取り組み 読書活動の環境整備・充実 読書に親しむための機会の提供 人材の育成と関係職員の資質向上 啓発活動と推進体制の整備 2 不登校・いじめ対策について (1) 旭川市適応指導教室「ゆらっくす」 (2) いじめ問題への対応について (3) いじめ・非行防止強化月間 												
主な質疑内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 旭川市子ども読書活動推進事業について (問) 子ども達が図書館を利用しやすい工夫はどのようにしているのか。 (答) 中央図書館では、祝日及び休館日(夏・冬休み期間のみ)に開館し、子ども達が楽しめるような行事を組んでいる。 (問) 図書資料の有効活用、リサイクルはどのように行っているか。 (答) 定期的に開催されるリサイクル市で不要となった図書を活用している。リサイクル市は、毎週土曜日の午後に、年間三十数回実施している。また、年1回、学校・幼稚園・保育所に絵本などの図書館のリサイクル本が必要ないかと呼びかけている。その他、市の施設の待合場所に提供を行っている。 (問) 支援が必要な子どもに対する手厚い事業を行っているが、手作りの本などを通して発達障害の子どもと触れあう機会はあるか。 (答) ボランティアが布絵本を使って行っている。貼ってはがせるアプリケがついており、感覚で本を楽しんでもらうものである。布絵本は、札幌市の私立図書館の指導を受け、ボランティアが製作し、図書館に寄贈している。 2 不登校・いじめ対策について (問) 不登校の児童・生徒の家庭を訪問し、通学を促すような取り組みはしているか。 (答) 毎週末に家庭訪問を行っている。また、特別の配慮を必要とするお子さんについては、担任だけでなくその学校の特別支援コーディネータや学校全体で支援する体制をとっている。 (問) ホットラインのように子どもから自発的に声を発せるしくみはあるか。 (答) 旭川市のいじめ・不登校相談室や北海道やNPO法人で用意している相談室の電話番号をガードにして子ども達に配布している。 												

行政視察報告

委員会名	文教委員会
視察日	平成28年5月19日(木)
視察先	北海道札幌市
視察委員	上村 やす子 委員長 峯 岸 良 至 副委員長 秋 本 とよえ 委員 小用 進 委員 荒 井 彰 一 委員 向 江 すみえ 委員 中江 秀夫 委員 中 村 けいこ 委員 大 高 拓 委員 小林 ひとし 委員
調査項目	資生館小学校について(現地視察)
事業概要	資生館小学校は、「次代を担う子どもがいいきと育つ環境づくり」及び「札幌市子育て支援計画」の理念を具体化するために、小学校、ミニ児童館、保育園、子育て支援総合センター館が同じ施設に入った子ども複合施設として建設された。0歳児から児童期までの一貫した子育て支援を行っている。
視察内容	現地視察 (1) 小学校 普通教室、特別教室、多目的教室、屋内体育館、温水プール等 (2) ミニ児童館 (3) 保育園 (4) 子育て支援総合センター (5) メモリアルホール
主な質疑内容	<p>(問) 各施設の連携を重視している一方、しせいかん保育園から資生館小学校に進むのが約1割とのことである。その具体的な理由は何か。</p> <p>(答) 保護者の職場が近いため、しせいかん保育園に預けるケースが多く、住んでいる地域自体は遠い児童が多い。このため、しせいかん保育園から資生館小学校に進学する児童が1割という結果になっている。</p> <p>(問) 待機児童解消の方策の一つとして、企業内保育も推進されてきているが、東京では、自宅近くに子どもを預けて働きに行きたいという母親が多い。仕事場の近くに預けるとい背景には、住んでいる地域に保育園が少ないというような事情があるのか。</p> <p>(答) 地域の特性として商業地域となっているため、仕事場の近くに預けるケースが多いと考えている。また、小学校に関しても、近辺に住んでいる児童は少なく、スクールバスで通学している児童が多い。</p> <p>(問) スクールバスの利用率が50%ということで、半数が徒歩での通学となるが、決まった通学路はあるのか。繁華街にある小学校に通うということで、安全面で心配はないか。</p> <p>(答) 決まった通学路がある。小学校入学前に担任の先生等がついて通学路を覚える取り組みを行っている。</p> <p>(問) 学童は登録制になっているのか。</p> <p>(答) 登録と自由来館が混在している。</p> <p>(問) 図書館が最上階など遠いところにある学校が多い中、入口付近に図書館があるのが、子どもに馴染みやすく、とても素晴らしいと考える。図書事業を大切にしている表れだと思われるが、何かコンセプトはあるのか。</p> <p>(答) 開設当初より市では読書に力を入れている。また、地域への開放も想定していたようだが、現在は行っていない。</p> <p>(問) 児童館は、児童福祉法上18歳までが対象となるが、ミニ児童館の対象年齢は12歳までということである。中学生・高校生を含めた地域への開放のコンセプトはどのようなになっているか。</p> <p>(答) ミニ児童館については、開設当初に12歳までというコンセプトがあったため、小学生の利用のみとなっている。体育館や図書館の開放は行っていた時期があるが、現在は行っていない。</p> <p>(問) ドーナツ化現象により、小学校統合となったとのことであるが、現在の児童数の推移はどのようなになっているか。</p> <p>(答) 児童数は、統合後13年間ほぼ変わっていない。</p> <p>(問) 札幌市内では、小学校を含めた複合施設はここだけか。</p> <p>(答) 小学校と保育園とミニ児童館と子育て支援総合センターの複合施設はここだけであるが、小学校とミニ児童館の併設は多い。また、まちづくりセンターを併設する試みもある。</p>